外国語教育メディア学会
LET
九州支部だより

第３３号
平成１２年５月１０日
ＬＥＴ九州支部事務局発行
〒８１８－０１９３福岡県太宰府市五条４－１６－１
福岡国際大学富岡研究室内
ＴＥＬ＆ＦＡＸ：（０９２）９２５－９８２４〔直通〕
E-mail：tomioka @ fukuoka-int-u.ac.jp
編集：富　岡

ＬＬＡから　ＬＥＴへ：２１世紀の外国語教育への始動

～第３２回支部研究大会・第１４回支部講習会に期待して～

ＬＥＴ九州支部　支部長　　**木　下　正　義**

２０００年度より学会名が語学ラボラトリー学会から外国語教育メディア学会に、英語名もＬＬＡからJapan Association for Language Education and Technology（略称ＬＥＴ）となっての新たなデビューとなる。１９６２年のＬＬＡ創設から約４０年の歳月を経て、更なる発展を誓っての新たなスタートでもある。昨年度はＬＬＡの土台を構築された初代会長の中島文雄先生や、小生も知己を得て親しくご指導して頂いた第３代会長の天野一夫先生が逝去され、ＬＬＡの時代の閉幕を象徴する年であった。ＬＬＡ全国大会・支部大会や講習会で出会った多くの先生方との親交がどれほど小生の人生や研究の礎になったことか感謝に耐えない。ＬＬＡが今日の私を育ててくれたと言っても過言ではない。ＬＬＡからＬＥＴの名称改名には約５年の歳月を要している。改名に至るまでには全国の会員にアンケートを取ったり、各支部では改名についてのシンポジウムまで開催して議論百出し、紆余曲折の結果誕生したＬＥＴである。

ＬＥＴの総則第０２条に「本会は、外国語教育を中心とする言語教育の理論及び方法と、それに利用する教育メディアの研究をおこない、その分野の発展に寄与するとともに、会員相互の情報交換をおこなうことを目的とする。」とある。ＬＬＡの総則で「語学ラボラトリーを中心とする教育メディアを開発し利用する…」とあるのと比較すれば、国際化・情報化の時代に外国語教育を実施する上で、ＬＬだけのメディアだけでは対応が不可能になってきたという背景が、ＬＬＡからＬＥＴへの改名の動機としてあることはご理解頂けるであろう。

ＬＬも初期に誕生した簡易ラボからフル・ラボそしてＣＡＬＬ，ＣＥＬＬへの発展とハードの変遷は驚嘆に値する。このほんの数年でＬＬもコンピュータ支援のインターアクティブインターネット・マルチメディア対応型のものが標準のＬＬ教室として定着しつつある。ブース卓も従来のＴＲ，ＲＡ設置型からMO，ＣＤ－RW，ＣＤ－ROM用の各ドライブとフロッピーディスク・ドライブが設置されている教室が増加の傾向にある。２００１年には全国の中・高校にインターネット接続が完了することになっており、そうなると新学習指導要領のもとで外国語教育が施行される初等・中等教育でいかなるメディアを駆使して教育がなされるか大変興味深い。学習教材もカセットやビデオ等のアナログのテープ、フロッピー・ディスクやＣＤ－ROMに代ってデジタル・ソフトの開発へ時代となるであろう。ＣＡＬＬやＥＯＤシステムの開発によるマルチメディア・オン・デマンドはマスターから流れる教材ソフトと学生間のやりとりを可能し、それによって学生各人の習熟度やモティベーションに対応したプログラム選択と自学自習が可能となる。２１世紀は教育環境の変化が、教授法やソフト開発、更にはハードの進化に拍車をかけることになり、それに伴う理論と実践面での研究が増えることになるだろう。ＬＥＴは２１世紀の外国語教育に欠くことの出来ない学会であり、幼児から大学生までの幅の広い外国語教育に貢献することが期待される。

２０世紀最後の年である２０００年度の第３２回ＬＥＴ（旧称ＬＬＡ）九州支部研究大会と第１４回ＬＥＴ講習会はそれぞれ６月１０・１１日に長崎市郊外の長与町の広大な丘陵地に一昨年度に開校した県立長崎シーボルト大学で開催される。昨年７月に今回大会の実行委員長の小川直義先生のご案内で谷川学長はじめ大学関係者の方々とお会いし、全学を挙げての大会開催への協力を受諾していただいた。毎年３月末になると研究大会の発表件数が気掛かりになるが、最終的には昨年度の大会を上回る過去最高の２０件の申し込みがあった。今年の大会の特徴はＣＡＬＬやマルチメディアを利用した実践研究、研究発表が多彩であること、発表者も大学関係だけでなく中学、高校、高専その他の教育機関にまたがることなどが挙げられる。

本大会の目玉はシンポジウムである。シンポジウムのテーマは「メディアを活用した外国語教育：２１世紀への展望一早期教育から高等教育まで一」である。コーディネーターには今年から鹿児島大学に赴任されたロバート・ファウザー先生を迎え、パネリストとしては、中学校から川下博子先生（小値賀町立中学校大島分校）が生徒数３名の僻地にある分校でインターネットを利用した英語教育に取り組まれた実践報告、高校から福田道夫先生（北松南高校）が「英語を知識としてでなく手段として」のテーマでの発表、短大からは金森強先生（長崎ウエスレヤン短大）が「マルチメディアの効果的利用法について」、大学から東條加寿子先生（九州女子大学）が「マルチメディア

が可能にした人口的言語環境の効果と混乱：ＤＶＤを利用した英語字幕付き映画の視聴を例に」のテーマで発表される予定である。白熱した討議が展開されることを望みたい。

第２日目の第１４回目を迎えた支部講習会は、午前の部は主に業者によるワークショップがあり、ソニーとアルク（株）の協力を得て１）ＣＡＬＬシステムにおける教材作成２）ＷＢＴ語学学習システムと学内ＬＡＮにおける活用例が披露される。午後の部は上村俊彦先生（長崎シーボルト大学）による「英語教師のコーパス言語学入門」と佐藤徳之先生（長崎南高校）の「インターネットを利用した英語教育」についての実践報告がある。大変興味深いプログラムであり会員諸氏の多くの参加を是非お願いしたく存じます。では長崎で再会と歓談を祈念して。

語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会規定ならびに同応募規定の改正について

ＬＥＴ九州支部　副支部長　福岡大学　**大　津　敦　史**

ご承知の通り、本年４月１日より学会名称が正式に変更になりました。それに伴い、昨年度の支部研究大会の総会におきまして皆様にご承認いただきました「語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会規定」ならびに「語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会応募規定」を下記の様に改正いたしたいと考えております。最終的には本年度の支部研究大会の総会でご承認いただくことになりますが、以下の改正案につきまして何かご意見などがありましたら、支部事務局までご連絡くださいませ。

【現　　行】

語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会規定

（目　的）

第１条　語学ラボラトリー学会会則第４条により研究会を設置し、同会則第３条の目的を達成する。

（名　称）

第２条　研究会の名称は語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会（以下、研究会）とする。

（組織と構成）

第３条　運営委員会は同委員の中より２名の研究会組織委員を選出し、研究者の選考を委嘱する。

２．研究会組織委員は支部会員より共通の研究課題を有する研究グループを公募し、その中から１件を選出した後、運営委員会に報告し、承認を得る。

３．研究会を構成する研究者の数は、５名を上限とする。

４．必要とあれば研究会組織委員は研究者を兼任できる。

５．研究会には研究代表者をおく。

６．研究会応募規定は別途定める。

（義務と報告）

第４条　研究者は原則として研究会に参加する義務がある。但し、E-mail 等を利用しての参加も認められる。

２．研究会は原則として毎月１回開くものとする。

３．研究会の場所は適宜決定できる。

４．研究会は研究成果を当学会の全国研究大会や支部研究大会ならびに紀要等で発表することを原則とする。

５．研究代表者は原則として毎年１回、運営委員会において活動報告および会計報告を行う義務がある。

（研究期間）

第５条　研究期間は２年とし、延長する場合には再度申請しなければならない。

（研究補助費と特別補助費）

第６条　研究会には資料および通信費として、支部より３万円の研究補助費が与えられる。

２．研究会には研究内容やその方法によって、支部より１０万円を上限として特別補助費が与えられる。

３．特別補助費の支給に関しては運営委員会の承認を得るものとする。

（出版物の版権と収入）

第７条　研究成果を出版物として刊行する場合には、研究代表者は運営委員会の承認を得る義務がある。

２．出版物の版権は研究会が所有し、刊行にともなう印税収入も研究会が収得できるが、その２割を支部に還元することを原則とする。

付則　但し、この規定は平成１１年６月１２日から施行する。尚、学会名称等が正式に変更された時は、それに伴い、この規定に必要な改正を施すことがある。

語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会応募規定

１．本研究会への応募資格を有する者は、語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部の会員である。

２．研究課題は、これまでの研究成果の累積を踏まえ、更に発展させることのできる未発表のものに限る。

３．応募を希望する者は、研究計画調書を支部事務局まで請求する。その際、返信用切手を貼付した封筒に研究代表者の住所と氏名を明記したものを同封する。

４．研究計画調書に必要事項を記入し、２月末までに支部事務局まで返送する。

付則　但し、この規定は平成１１年６月１２日から施行する。尚、学会名称等が正式に変更された時は、それに伴い、この規定に必要な改正を施すことがある。

【改　正　案】

外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）九州支部研究会規定

（目的）

第１条　外国語教育メディア学会会則第５条により研究会を設置し、同会則第２条の目的を達成する。

（名称）

第２条　研究会の名称は外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）九州支部研究会（以下、研究会）とする。

（組織と構成）

第３条　運営委員会は同委員の中より２名の研究会組織委員

を選出し、研究者の選考を委嘱する。
2、研究会組織委員は支部会員より共通の研究課題を有する研究グループを公募し、その中から１件を選出した後、運営委員会に報告し、承認を得る。
3．研究会を構成する研究者の数は、５名を上限とする。
4．必要とあれば研究会組織委員は研究者を兼任できる。
5．研究会には研究代表者をおく。
6．研究会応募規定は別途定める。

（義務と報告）

第４条　研究者は原則として研究会に参加する義務がある。但し、E-mail 等を利用しての参加も認められる。
2．研究会は原則として毎月１回開くものとする。
3、研究会の場所は適宜決定できる。
4．研究会は研究成果を当学会の全国研究大会や支部研究大会ならびに紀要等で発表することを原則とする。
5．研究代表者は原則として毎年１回、運営委員会において活動報告および会計報告を行う義務がある。

（研究期間）

第５条研究期間は２年とし、延長する場合には再度申請しなければならない。

（研究補助費と特別補助費）

第６条　研究会には資料および通信費として、支部より３万円の研究補助費が与えられる。
2．研究会には研究内容やその方法によって、支部より１０万円を上限として特別補助費が与えられる。
3．特別補助費の支給に関しては運営委員会の承認を得るものとする。

（出版物の版権と収入）

第７条　研究成果を出版物として刊行する場合には、研究代表者は運営委員会の承認を得る義務がある。
2．出版物の版権は研究会が所有し、刊行にともなう印税収入も研究会が収得できるが、その２割を支部に還元することを原則とする。

付則　但し、この規定は平成１２年６月１０日から施行する。

外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）九州支部研究会応募規定

1．本研究会への応募資格を有する者は、外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）九州支部の会員である。
2．研究課題は、これまでの研究成果の累積を踏まえ、更に発展させることのできる未発表のものに限る。
3．応募を希望する者は、研究計画調書を支部事務局まで請求する。その際、返信用切手を貼付した封筒に研究代表者の住所と氏名を明記したものを同封する。
4．研究計画調書に必要事項を記入し、２月末までに支部事務局まで返送する。

付則　但し、この規定は平成１２年６月１０日から施行する。

備考：上記の改正案において、下線を施した部分が現行と異なる箇所である。尚、改正案の付則の中では、現行の付則の後半部分は削除されている。

外国語教育メディア学会（ＬＥＴ）九州支部研究会発足

「ＬＥＴ九州支部研究会」は、１９９３年から３期にわたって活動が続けられた「語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究推進委員会」に代る支部内の研究会として、１９９９年６月１２日の支部総会で承認されたものです。このほど最初の研究会が公募され、下記の研究グループを、２０００年４月より２年間を研究期間とする支部研究会とすることが、３月３１日の運営委員会で決定いたしました。

１）研究課題：「アジアにおける小学校英語教育メディア教材研究一言語的・文化的・教育学的視点より」

２）研究代表者：ロバート・ファウザー（鹿児島大学教育学部）

３）共同研究者：テリー・ラスカウスキー（熊本大学教育学部）、小笠原真司（長崎大学教育学部）、金森強（長崎ウエスレヤン短期大学）

４）研究目的：アジアにおける小学生英語教材（特にコンピュータ・ソフト）を言語、教育、国際理解の視点から分析・研究し、理想的なソフト作成の条件を探る。

韓国では１９９７年より小学校に「英語」が正科として導入されており、担任教師が指導できるようにメディア教材が開発されています。日本でも、２００２年度より（実際には移行措置として２０００年度から）国際理解教育の一環としての英会話学習を「総合的な学習の時間」で実施することが可能となっており、本研究会の研究成果は今後の「小学校での英語教育」のための教材作成および指導法の開発などに大いに貢献することが期待されます。

なお、この研究会の２年間の研究に対して、３万円の研究補助費と１０万円の特別研究補助費が支部より支給されることが運営委員会において承認されております。そしてこの研究会の研究成果は、ＬＥＴ九州支部研究大会または全国大会にて発表され、論文としてまとめられることになっています。

支部研究会の選考に際しては、「支部だより３１号」にて報告された「語学ラボラトリー学会（ＬＬＡ）九州支部研究会規定」に則り、昨年９月の運営委員会で運営委員の中から選出された２名の研究会組織委員が、研究グループの選考の任にあたりました。こうして公募で選出された研究グループに対して、支部より研究補助費が支給される制度がスタートしたことは大変意義深いことと思われます。

今回の募集では、十分周知されていなかったこともあってか１件のみの応募でしたが、２年後の次回の募集では、多数の会員の方々に競って応募していただけることを心待ちにしております。　（研究会組織委員）

ＬＥＴ九州支部ホームページの立ち上げと
メーリングリストについて

ＬＥＴネットワーク委員　　宮崎公立大学　**竹　野　　茂**

九州支部ホームページについて

大変お待たせしましたが、ＬＥＴ九州支部のホームページが立ち上がっております。随時情報を更新して参りますのでご活用のほどお願い申し上げます。

ＵＲＬは、http://www3.miyazaki-mu.ac.jp/html/LET/LET.htmlです。（語学ラボラトリー学会のロゴになっております。）これは暫定的なもので、今後変更する予定ですが、ＬＬＡの情報の引き続きで掲載しております。今後の最新情報から本学会の過去の活動状況まで、利用に便利なようページを充実して行くつもりです。会員の皆様からのご要望にも積極的に答えていきたいと存じますので、直接竹野（takeno@miyazaki-mu.ac.jp）まであるいは事務局までご要望をお寄せください。また、後ほど述べますメーリングリストをご利用いただいても結構です。

内容としては、支部大会情報・支部講習会情報・全国大会情報などの各種大会に関する情報、会則・支部細則・支部運営委員会情報・会員への連絡などの学会運営に関する情報、ニュースレター・学会誌などの刊行物に関する情報、支部としての研究活動報告・個人レベルでの研究報告など研究に関する情報、入会・研究会応募要項などの定型文書のダウンロードサービスなどを目指してページ作りをして参ります。まだＬＥＴとＬＬＡの情報が混在していて、わかりにくい部分も多々ありますが、より分かりやすいページを目指し、刷新して参ります。

九州支部メーリングリストについて

ホームページの公開に伴い、メーリングリストも立ち上げました。http://www3.miyazaki-mu.ac.jp/html/LET/MailingList.shtml にて、登録の詳しい情報を載せていて、重複する内容になりますが、この紙面を借りて少し説明させてください。

当メーリングリストは、英語に関わる話題について、ネティケットに反しない限り自由に投稿していただき、当学会の支部活動を広く知らしめ、一般に学会員・非学会員の別なく広く意見交換することを目的としております。

従って、個人・団体等に対する誹講中傷や商品の取り引きに関する情報などを載せないようお気をつけください。また、本メーリングリストにそぐわない話題については管理者権限で削除することもございます。その旨、ご納得の上でご参加下さい。

メーリングリストとは、同報通信であり、メーリングリストのホストコンピュータにメールを送ることにより、そのメーリングリスト参加者全員に、皆様のメールが配信されるシステムです。同時にたくさんの人へ情報を発信できる利点があります。発信者が限られれば、一方通行になりがちですが、研究上の疑問、意見等を発信し、他の参加者が、出された疑問や意見に対する回答・コメントを寄せる事により、双方向性が維持される性格を持っております。ここまで書くと、個人メールの遣り取りと何ら変わりないのですが、異なるのはそのメールの遣り取りが公開されているという点です。参加者全員にメールが配信されていますので個人に対するメールの内容であっても、参加者全員がその内容を読むことになります。この点に注意が必要です。

１対１のメールのやりとりでは、なかなか深まらない議論が複数の人の参加で実りのある議論に発展することもあり、この点がメーリングリストの最大の利点になります。

多くのメーリングリストでこの利点を最大限に利用し、多くの成果をあげている例もありますが、時には悪意のある参加者によって、個人的な感情を害し、ネット上の喧嘩になってしまった結果、メーリングリストそのものの存続が危うい状況に陥るということもあります。悪意はなくとも発言内容によっては誤解が生じ、同様の事態になることも予想されます。しかし、ネット・コミュニケーションは、発展段階であり、確固たるモラルが未だ存在しません。参加者がそのことを自覚し、自らの発言に責任を持ち、参加者自身の手で良質のコミュニケーションを作って戴きたいというのが、私の願いです。充実したメーリングリストにしていきましょう。

さて、参加方法ですが、これも上記のＵＲＬで紹介しておりますが、簡単に説明しておきます。

メーリングリスト参加要求の流れ

１．メーリングリスト参加要請メールをホストコンピュータに送ります。

２．ホストコンピュータから参加確認メールが届きます。

３．ホストコンピュータに参加者の認証要求返信メールを送ります。

４．ホストコンピュータからウェルカムメッセージが届きます。

５．以上で、メーリシグリストのメンバーに登録されます。

実際に、上記の流れの番号にあわせてどのような作業をするかというと：

１．メールソフトを起動し、サブジェクト欄は空欄でメッセージ欄に次の一行を書きます。（署名をお使いの方はオフにしておいてください。）

subscribe let9-ml 参加者のメールアドレス

参加者のメールアドレスの部分には、皆様のメールアドレスを正確に書きます。このメールを以下のアドレスに

送ります。(「To:」欄に記入する。)

Majordomo@caesar.miyazaki-mu.ac.jp

２　１がうまく送られ処理されると以下のようなメールが届きます。

Subject: Confirmation for subscribe let9-ml
Date: Thu, 30 Mar 2000 O1:32:39+0900
From: Majordomo@caesar.miyazaki-mu.ac.jp
To: xxxxx@popX.xxx.xx.jp

Someone (possibly you) has requested that your email address be added to or deleted from the mailing list "let9-ml@caesar.miyazaki-mu.ac.jp"

If you really want this action to be taken, please send the following commands (exactly as shown) back to "Majordomo @caesar.miyazaki-mu.ac.jp";

auth 12a34567 subscribe let9-ml
xxxx@popX.xxx.xx.jp

If you do not want this action to be taken, simply ignore this message and the request will be disregarded.

If your mailer will not allow you to send the entire command as a singleline, you may split it using backslashes, like so:

auth 12a34567subscribe let9-ml ￥
xxxxx@popX. xxx.xx.jp

If you have any questions about the policy of the list owner, please contact
"let9-ml-approval@caesar.miyazaki-mu.ac.jp".

Thanks!

３　この２つのメールに書かれている指示に従って、返事を送ります。その際、１つの要領に従ってください。上記の中で、ａｕｔｈの次にある文字列(ここでは、１２ａ３４５６７)は認証文字列です。個人個人で異なっています。これを正確に打ち込んでください。上記のメールでは２行にまたがっていますが、１行にしてください。もし２行になる場合には

auth 12a34567 subscribe let9-ml ￥
xxxxx@popX.xxx.xx.jp

　の様に、改行する部分に「￥」または「バックスラッシュ」をタイプしてください。

４　Majordomo@caesar.miyazaki-mu.ac.jp からウェルカムメッセージが届きます。このメールには、メーリングリストをお辞めになる場合のコマンドが書かれております。よくお読みになった上で、辞める場合には以下の内容のメールをお送りください。

　unsubscribe let9-ml 参加者のメールアドレス

５　メーリングリストにメールを投稿する場合のアドレスは、以下の通りです。参加要求のアドレスとは異なりますので注意してください。

let9-ml@caesar.miyazaki-mu.ac.jp

　長々とした説明になりましたが、お分かりになりましたでしょうか。これを機会に一人でも多くの方々がネットコミュニティーの一員になられることを期待します。

事務局からのご報告ならびにご連絡

【新会員のご紹介】

１９９９年１１月以降、次の方々が入会されました。

渡辺　洋子　長崎純心大学短期大学部
長崎県立シーボルト大学付属図書館
筑紫女学園大学
筑紫女学園短期大学

【事務局移転のお知らせ】

支部研究大会･講習会終了後、即ち６月１２日以降ＬＥＴ九州支部事務局は下記に移転します。

新事務局：〒８１４－８５１１福岡市早良区画新6-2-92
西南学院大学語学ラボラトリー
E-mail: ll@staff.seinan-gu.ac.jp

新事務局長には武井俊詳氏〔西南学院大学〕が就任されます。

なお、新事務局の電話・FAX 番号につきましては、支部大会終了後にお知らせします。いずれ改めて支部事務局移転通知を郵送致しますのでよろしくお願い致します。

会費納入のお願い

２０００年度の年会費（５０００円）を、先般 Newsletter ７８号、機関紙３７号と共に同封しました払込用紙にて、郵便局よりお支払い頂きますようご案内申し上げます。（１９９９年、１９９８年度の会費を未納の方は、恐れ入りますが、２０００年度分と合わせてお納め下さいますようお願い申し上げます。）支部の円滑運営にご協力下さい。

前号３２号の誤植のお詫びと訂正

前号p. １左段上から５行目の「終局目的」→「終局目標」

同じくp. １右段上から１０行目
「娘が言うように」一＞「朖が言うように」

以上の誤植がありました事をお詫びして訂正致します。